

第8回 港湾における i-Construction 推進委員会

議 事 概 要

日 時：令和6年3月4日（月） 10:00～12:00

場 所：（一財）港湾空港総合技術センター 2階会議室 および Web 会議

1. 主な議事

- 事務局より、本年度の委員会での取り組み内容等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

- マルチビームデータクラウド処理システムについては、浚渫船へのマルチビームの搭載により、日々の出来形管理に活用することで、施工の効率化を図ることができると思われるので、その観点も含めて取り組んでほしい。また、水路測量への活用については、今後、海上保安庁と調整しながら検討していくことが必要。
- ICT 機器や3次元データを活用した出来形の管理・検査については、定量的な計測精度を求めるだけではなく、どのように工事の成果物の品質を高めるかという観点が重要。工事全体で最適化が図れるような出来形管理全般の考え方について検討することが必要。
- 中小企業向け ICT 活用モデル工事については、ICT の活用に伴い出来形管理の精度や測定頻度等の条件が現状より厳しくなるようなことは避けるべきであり、施工業者の負担が大きくなるような実施内容とすることが重要。
- 中小企業には ICT 活用のメリットが伝わりにくいことから、機材のカタログ等の提供などで理解を促すような工夫が必要。またモデル工事は、中小企業向けの工事として件数が多い工種を主体として取り組めば ICT の活用が広がると思われる。
- 港湾分野では、中小企業は国の直轄工事以外で受注していることが多いので、海上・港湾工事で適用すべき技術については、他分野や自治体、民間の発注工事にも波及するように、国（港湾局）が先導して取り組んでいくことが重要。
- ICT の活用は、災害対応にも有効と思われるので、その観点での検討が必要。
- BIM/CIM の活用促進に関しては、気軽に BIM/CIM データに触れることができる機会を設けることも必要であり、人材育成のほかに広報という観点での取り組みも必要。
- DX の取り組みとして、複数のシステムが構築・運用されているが、全体の構成や関連等が分かり難いことから、分かり易く整理することが必要。
- 将来的な生産性向上のためには、現在の就業時間や作業体制の見直しが必要になることから、今後、関係者と調整しながら、その対応のための取組方針を定め、関連の基準類を改定していくなどの対応が必要。

以 上